



接続詞の概要と等位接続詞

英文法入門②③

- 接続詞とは何か
- 2種類の接続詞
- 等位接続詞の基本
- 派生的な等位接続詞
- 等位接続詞が導く同形反復と省略

接続詞とは何か



- 単語と単語、句と句、文章と文章など「接続」してくっつける役割・機能を持つ語のこと。
- 接続詞として働く語は覚えておく必要がある。
(多く見積もっても**50語**くらいです。そのうち半分以上は聞いたことあるやつです。)
- **接続詞が何を繋いでいるかは、動詞の文型にも大きな影響があるので必ず接続詞を確認する必要があります。**

2種類の接続詞



接続詞は以下の2種類のどちらかに分類される

① 等位接続詞

- 同じもの同士をつなぐ。
- and, or, butなど数語のみ。

② 従属接続詞

- 文 (SV) と文 (SV) をつなぐ。
- 等位接続詞以外の接続詞は全て従属接続詞。

等位接続詞の基本



等位接続詞は次の7語 →

and or nor but yet
so for

【原則】

等位接続詞は**文法的に同じもの同士をつなぐ**

つまり・・・SとS、VとV、OとO、CとC、MとM

準動詞と準動詞、句と句、文と文… などなど！

等位接続詞は文法的に同じもの同士をつなぐ

- You and I are friends, aren't we?
- I have visited Italy, France and Switzerland.
- He approached the dog slowly and carefully.
- This wall was painted last year but already looks old.
- English is widely spoken around the world and commonly taught as the first foreign language in public education.
- She must choose James or Michael.
- To be, or not to be, this is the question.
- I said Yes, and we shook hands.
- The government requires all restaurants to close by 20 and not to serve alcohol during opening hours.
- The first one now will later be last, for the times are changing.
- I don't like physics, so I don't like my physics teacher.
- The painting is frightening yet appealing.



派生的な等位接続詞



- not A but B
- not only A but also B
- either A or B
- neither A nor B
- between A and B
- both A and B
- more~/~er than (比較級) →比較級のときにやります

派生的な等位接続詞

- I didn't want to bother you but just wanted to support.
- I hate him not only because he cheated me but also because he didn't tell me he was in debt!
- You choose either right or left.
- Between you and me, I won the lottery.
- Both my mother and father speak English and Spanish.
- He plays the piano better than I did when I was around his age.



等位接続詞が導く同形反復と省略




★同形反復

文字通り同じ形が反復されること。英語では同形反復が頻繁に見られ、**文型を発見したり文章の論理接続を理解したりするヒント**になる。**同形反復の2回目以降では前と同じ部分が省略される**ことがよくある。

→等位接続詞は「同じもの同士を繋ぐ」という性質から同形反復を導くパターンの筆頭。

※ちなみに等位接続詞以外で同形反復を導く例は
「疑問文とその回答」

同形反復と省略

- He is not only a strong man but also smart.
- Do you want to come with us, or you don't want to?
- A black badge was given to the first group, a white badge to the second group, and a red badge to the third group.
- I am not the criminal, and he is not either.
- I am not the criminal, but he is.
- Are you alright? – Yes, better than yesterday. 



コラム：英語における省略



言語活動においては、逐一すべての情報を言うことの方が珍しいです。例えば日本語では「唐揚げおいしい？」と聞かれれば「うん」とか「おいしい」と答えるのが普通で、よもや「うん、私が今食べているこの唐揚げはおいしいよ。」などとは言いません。これはもちろんお互いに今何の話をしているか了解しているからであり、その「お互いに了解していると信用できる範囲」のことはできるだけ省略して話すのが常です。ただ、お互いに了解していればなんでもかんでも省略できるのかと言えばそうではありません。省略できる範囲は、「使用言語の文法が許す範囲」に限られるのです。

日本語で考えるとなんでも省略できるように思えるのは日本が極端なハイコンテキスト文化を持っていて、日本語にもそれが反映されているからです。（エドワード・ホールという文化人類学者の研究が有名。）要するに相手の汲み取る力に頼って委ねることで、直接的な表現を避けた余白の多いコミュニケーションをとる文化とすること。（ハイコンテキスト=高文脈ですね。）空気を読みあう文化はその好例ですし、俳句などの芸術も解釈の大部分を聴き手・読み手に委ねています。（西洋絵画の印象派なども曖昧な描写が特徴ですが、マネなどが印象派の代表作を描く直前期にフランスでジャポニスムが流行していたという背景があるのも興味深いです。）

一方、英語圏はローコンテキスト文化の代表です。英語と同じゲルマン諸語に属するドイツ語やスカンジナビア各国語は英語にも増してローコンテキストだと言われています。つまり「全部言わなきゃわからんぜよ」のストロングスタイル。哲学が盛んだったり、資本主義の興隆と共に大量に生まれた事務作業や法律整備などがこのへんの国の文化と相性が良かったりするところにローコンテキスト感が見えますね。アメリカのヒット映画は善悪二元論の勧善懲悪などわかりやすいのが多いし。（事実のやり取りや責任の所在確定、効率的な伝達をベースにガツガツ仕事を回す現代の経済活動においては日本でもローコンテキスト化が進んでいるとか。生産活動はよく進んだとしてもそれで文化の多様性が失われていくのはなんだかなあとも思う。英語を教えてあいてアレですが。まあ、食うか食われるかのグローバル社会では強者に適応するしか生きる道はないのでしょうか？）

ということで英語にはローコンテキスト文化なりの特色があります。「言わなきゃダメ」。つまり省略に関しては日本語ほど自由ではないということです。Sを必ず書かなければならない、などは良い例。（スマホでのテキストメッセージや音楽の歌詞ではSの省略が頻繁に起きますが（もちろんSが明らかなき）、普通はダメです。フランクな場や友達同士の会話でもかなり限定的な決まりきったパターンでしか起きません。）逆に言えば英語において、省略が文法的に正しい範囲で発生するパターンには限りがあり、それを覚えれば良いということ。同形反復の2回目以降の省略はその代表格です。今後もいくつか「省略」という文法事項が登場することがありますが、この話を意識していると面白いかもしれません。

同形反復と代用表現

同形反復の2回目以降で省略が起きることがありますが、ここでいう省略とは「文型に不可欠なもの」や「無いと意味が変わるもの」を端折ることでした。一方で英語には文型や意味を保ったまま、繰り返し部分を簡単な表現に置き換えることもよくあります。ここではまとめて代用表現と呼びましょう。

- I don't like natto, but he loves **it**. (代名詞)
- I visited him last night and I think you **did** too, right? (代動詞)
- Did you see the match? – Yes, I **did**. (代動詞)
- I should have put this in the fridge.
– I told you **so**! (so)
- My father was a pianist, and **so** am I. (so)

